

令和4年度 第1回 曳馬中学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和4年5月11日（水） 10時00分から12時00分まで  
（10:20～10:50は授業参観）
- 2 開催場所 曳馬中学校 会議室
- 3 出席委員 鈴木 芳次、高山 良子、熊谷 義廣、太田 悦則、  
鈴木 哲也、平間 良明、池村 俊典
- 4 欠席委員 佐藤 洋子
- 5 オブザーバー 大平 智史（曳馬協働センター）
- 6 教育委員会 清水 悠（教育総務課）
- 7 学 校 玉木 言明（校長）、平原 政和（教頭）、牧野 知子（教頭）、  
鈴木 亮（主幹教諭・CS担当）、今田 明子（CSディレクター）
- 8 傍聴者 なし
- 9 協議事項
  - （1）副会長の指名について
  - （2）議長の選出について
  - （3）曳馬中学校運営基本方針について
  - （4）地域人材について
  - （5）夢育やらまいか事業の意見書について
- 10 会議記録作成 CSディレクター 今田 明子
- 11 会議記録

司会の鈴木亮より、委員総数8人のうち7人の出席があり、過半数に達しているため、議会が成立している旨の報告があった。

協議に先立ち、昨年度の学校運営協議会の自己評価、学校運営協議会についての説明、新委員の任命、委員の自己紹介を行った。

（1）副会長の指名について

昨年度、副会長の佐藤委員がコーディネーター兼任になった関係で、今年度の副会長について会長鈴木芳次委員から、太田委員を副会長に指名する旨の報告があった。

（2）議長の選出について

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、太田委員から会長鈴木芳次委員を推挙する旨の発言があり、協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

（3）曳馬中学校運営基本方針について

議長の指示により、校長から、別紙資料に基づき学校運営基本方針について説明があり、委員からは以下の発言があった。

- ・基本方針は第1回協議会で承認しなければいけないので、事前送付するなど事前に周知してほしかった。昨年度との違いを明確に説明してほしい。（池村委員）

→昨年度との違いは、コミュニティ・スクール（以下、CS）に関して、昨年度は推進、今年度は充実。今年度は、具現化していく。変えるべきは変え、継続するところは継続していく（玉木校長）

・学校と地域のつながりを密にしていくとは、具体的にはどういう方法で行う？（鈴木芳次委員）

→コロナ禍ではあるが、地域とどう連携していくか。具体的には総合の職場体験。今まで行っているところにCSが入っていく中で、子供達にもっと地域を意識させたい。（玉木校長）

→地域としても全力で協力する（鈴木芳次委員）

・前任校と比較して、こうした方がいいというようなことはあるか。参観して落ち着いていると感じた。（鈴木芳次委員）

→比較ではないしあくまで私見だが、落ち着いている、大人とのかかわりができる子供たちだと感じている。自己表現ができ、自分らしさを持っている。集団を大事にしようと思っている子がたくさんいる。そのことが、行事に生きてくると思う。曳馬中に誇りをもって卒業していくという感じを受けている（玉木校長）

・地域とのつながりが大事と受け止めたが、以前から自治会とのつながりを大事にしている地域。大人の考えが子供に伝わるのが大事。防災関係でも、自治会・学校とのつながりが見受けられる。そういうところから、将来、子供たちが防災隊に入るなどというつながりになる。（熊谷委員）

→コロナ禍でここ数年関わりがなかった。学校も開かれた環境になれなかった。職員も入れ替わるので手探りでスタートになるがやっていきたい（玉木校長）

・浜松まつり（上島地区）の参加者が、高校生：0名、中学生：8名だった。部活動で来られなかった子も多い。地域の行事である浜松まつりを部活動は考慮できないのか？地域とのかかわりとして具現化してほしい。（平間委員）

部活動も大事だが、「部活動があるから、まつりに行けない」のではなく、子供の主体性で行く、行かないを決めさせてほしい。（太田委員）

まつり離れが続くと、伝承ができない。まつりと聞いても、ワクワクしない、地域外に出て帰省しない。今年度はワッペン売り上げ1/3だった。大震災で3万人減。まつりの参加者が少なくなってしまう。まつりを通して地域と関わる大人になっていくと思っている。（鈴木芳次委員）

→GW中の部活動に関しては、個々に大会か練習かは現状で即答はできない。学校としては、まつりに行くことを許容しているつもりだったが、実態を確認する。（玉木校長）

・子供会の会員減（半減）。コロナ禍でコミュニティができていない。小さい子が根付いてきていない。地域との結びつきを学校の評価に入れるなど方法はないか。浜松まつりの時、助信町は昔、5月4日は早く帰れた。地域との結びつきを大事にしてほしい。（鈴木哲也委員）

・【防災訓練】参加するよう働きかけてほしい。集合することが大事。何かあったときにそこに行くと感じる事。昼間何かあったときに一番近くにいるのが中学生。何かあ

ったときはこうするという認識を持つように指導願いたい。(鈴木芳次委員)  
防災訓練への参加人数は？学校から積極的に参加するよう働きかけている？(高山委員)

→把握していない(鈴木芳次委員)

→大会を除き、部活動は必ず休みにする。(玉木校長)

・【防災訓練】強制だから行くのではなく、なぜ参加しなければならないのかを学校で説明してほしい。(太田委員)

→1年生「防災」について学ぶ。地域での役割を認識させていく。(玉木校長)

協議の結果、全員異議なく承認した。

#### (4) 地域人材について

議長の指示により、教頭平原から、地域人材について以下のように説明があった。

1年「地域に生きる」防災、2年「地域で生きる」職業体験、3年「地域を創る」生き方を学習し、地域へ出ることができるよう計画している。11月総合の学習の日を2日間とり、防災、職場体験、講師による講話、調べ学習などを行う予定。1年生は前倒しで6月フィールドワークを行う。2年生は職場体験を予定しているが、ここ数年受け入れ先がなくできていない。昨年度は、講師を招き講話を行った。本年度は何とか職場体験の形で行いたい。現在は企業に打診している状況で、コロナが落ち着けばいいという条件付き返答を多くいただいている。

昨年度、協議会で地域人材について具体的に言ってくれば助けられるという返答をいただいているが、体験なのか講話なのかまだはっきりしない。職場体験は、生徒を受け入れてもらえるか不透明なので、学校で計画を進めながら、行けるとはっきりした時点で足りない分野のサポートをお願いしたい。1年生の防災については、協働センターと進めていく。3年生は「浜松」をテーマにインターネットや「のびゆく浜松」、出前講座を利用して、進路と絡めて進めていく。

これについて委員からは以下の発言があった。

・地域の企業に依頼するとき、コーディネーターや協働センターによく話をしていくのが大事だと思う。(鈴木芳次委員)

→連絡調整を進めていく。(平原教頭)

・【防災について】北小跡、市防災センターなども活用しては？中学生が対象になったとたんに、受け入れのできる場所や講師が難しくなると感じる。(高山委員)

・職場体験の職種は決まっている？具体的でないと話が進めにくい。講話してもらうにしても具体的でないと困る。生徒からこういう体験をしたいという意見をとっているのか？先生が今まで単体でやっていたのを、地域とともにやっていくのがCSだと思う。今の進め方は、コーディネーターがいなくてもできるのではと感じる。情報共有が不足している。小学校では先生にアンケートを取って1年間の授業の中で必要なものをピックアップし、協働センターと協力して進められている。(池村委員)

→職場体験：生徒の興味関心がある職種で幅広い職種。コロナ禍で、一番受け入れが難しいのが福祉関係。足りない職種をコーディネーターをお願いしたいが、現時点

では何が足りなくなるかまだわからない。(平原教頭)

→コーディネーターを飛び越してしまったのが問題だった。今後は連携を密にしてい  
く(協働センター大平)

→どの教科にどういう人材が必要かわからない。年間計画を作れないか?(高山委員)

→コーディネーターとの連携を密にしてほしい。(鈴木芳次委員)

協議の結果、全員異議なく承認した。

#### (5) 夢育やらまいか事業の意見書について

議長の指示により、教頭平原から、夢育やらまいか事業の予算について説明があり、委員からは以下の発言があった。

##### ① 部活動の実績を載せた横断幕作成費支援 ② 総合連絡調整のための費用

・予算金額は?(鈴木芳次委員)

→夢育の中で、学校運営協議会用の予算として6万円が上乗せされている。夢育の予算範囲内であれば6万円以上でも使える。昨年は約30万円使用。(平原教頭)

・【部活動】給食費の公会計化にともない、部活動育成会の会費集金をやめた。今後は今までの積み立ての中から使用する形になり、残額がどんどん減っていく。自治会に活動費を応援してもらおう等の計画をしていきたい。将来の地域クラブ化も見据え、連携していきたい。(平間委員)

→夢育の中で遠征費は出せないのか?(鈴木芳次委員)

→教育課程の範囲内での使用となる。(教育委員会・清水)

→地域に対して部活動成果に関する広報物を出す(回覧等)。それによって自治体の支援を得られるのではないかと。横断幕だけでなく、そういう使い道もあるのでは。(平間委員)

協議の結果、全員異議なく承認した。

#### その他

・今後の予定

第2回運営協議会：令和4年10月13日(木)10:00~12:00

第3回運営協議会：令和5年2月14日(火)10:00~12:00

・協働センターより

今後コーディネーターと連携を密にとっていく。人材の確保の一端として、協働センターだよりの6月号「コミュニティスクールが始まりました」を発行し、学校支援に興味がある方を探す。

・浜松市教育委員会より

曳馬中では学校運営協議会は昨年度よりスタートした。部活動の位置づけの変化、給食費の公会計化等、学校も変化し、ゆとりがないと感じたり、多様な生き方が認められたり、世の中も変化している。それに応じて学校の役割も変わっていく。学校に求められるものの中で、内容により、地域に助けを求めるもの、学校が行うもの、という振り分けをしていくのがいいので

はないか。

以上

